

教区通信

# ふくおか

2025(令和7)年3月1日発行

Vol.145

発行

「御同朋の社会をめざす運動」  
福岡教区委員会



「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動) スローガン

## 結ぶ絆から、広がるご縁へ

-From tying bonds to great encounters-



▲上記 第35回仏教婦人(女性)大会/仏教青年連盟 聞法会 ▲下記 保育連盟 園見学並びに第1回福岡教区 園長・後継者研修会

### P6 園見学並びに第1回福岡教区 園長・後継者研修会

- P2 ご挨拶 ~新年度に向けて~  
宗会に臨むにあたり
- P3 宗会に臨むにあたり
- P4 時局問題対策協議会 第1回公開講座  
福岡教区会議員研修会

- P5 重点プロジェクト研修会  
第35回仏教婦人(女性)大会
- P6 仏教青年連盟 聞法会
- P7 法話「再び会える世界」
- P8 親鸞聖人鑽仰講座のご案内

## ご挨拶 新年度に向けて

福岡教区教務所長・本願寺福岡教堂主管 高原 真見



明年度が目睫もくしやうに迫ってまいりました。今年度は戦後八十年を迎えます。すなわち、福岡大空襲から数えて八十年の年にあたります。この史実を踏まえた取り組みを来年度の中で営んでまいりたいと鋭意準備を進めております。教区におきましては、戦争犠牲者追悼法要を一九八四(昭和五十九)年から厳修して過去の痛ましい歴史を振り返り、平和への願いを新たにする歩みを続けてまいりました。

国際社会では、未だ戦火は消えずロシアによるウクライナへの軍事侵襲から発生した戦闘、また中東では、イスラエルとイスラム組織ハマスとの軍事対立、さらにはイランとの交戦も加わるなど、ここ数日は停戦合意が成立しておりますも不安定な状況で、多くのいのちが犠牲になっており目を覆いたくなる惨状であります。いのちの尊厳が危ぶまれ、失われておりますことに心が痛みます。

敗戦国である我が国は、米国の中国敵視策に追従し、自衛隊の南西諸島への防衛拠点展開等「憲法九条」に込められた願いはおざなりに軽んじられていきます。今こそ、仏説無量寿経に説かれております「兵戈無用」、宗祖親鸞聖人の「世のなか安穩なれ仏法ひろまれ」のお心を広く伝え、さらなる平和に向けた歩みに努めていくことが、念仏者に課せられた使命であると認識しております。「あらゆる人々に阿弥陀如来の智慧と慈悲を伝え、もって自他共に心豊かに生きることできる社会の実現に貢献する」という浄土真宗本願寺派の基本理念のもと、平和に向けた各種取り組みを進めていく中で、その使命を果たしてまいりたいと存じます。

現在、宗門は、新しい「領解文」(浄土真宗のみ教え)に関して様々な異論があり、混乱が生じております。一刻も早く事態の收拾を皆様望んでおられることと存じます。総局のご指示を仰ぎながら解決に向けて取り組まねばならないと存じております。

得度誓約に「和合を旨とし、宗門の秩序を乱さないこと」と規定されております通り「和合を旨とし」を深く心に刻み、皆様のご理解とご協力を得られるよう二〇二五(令和七)年度教区宗務を推進してまいり所存でございます。皆様には何卒、ご理解ご協力のほどお願い申しあげ、ご挨拶といたします。

## 宗会に臨むにあたり

早良組 徳常寺 太田 喜之



この度、門徒議員としては全国でも稀な、投票という形で選出いただきました。他教区は、ほぼ無投票で、どうか福岡教区でさえ十数年ぶりとのこと、不慣れた戸惑いの中、人生初の選挙活動というものをしました。

投票権のある教区内の僧侶・門徒さんを訪れると、対応いただいたご家族や一般門徒さんまで集まってこられ、じっくりお話が出来ました。中には宗門に対して、決して同じ考えではない方もいて、「門徒議員たつて何ができるとな?」や「やらせんで、〇〇せないかんバイ!」と熱く訴えてくる方や、「門徒さんの代表やけん、僧侶の考えんようなこともしつかり言つてきてくれなバイ!」と激励してくれる方など様々でしたが、今でもその方々の言葉やお顔が浮かんできます。

当選後には京都の本山で議員承認式があり、全議員と初顔合わせしたのですが、門徒議員の投票は、福岡と兵庫だけだったということもあり、皆さんから熱烈に祝意を述べられ、また、議長からも投票で選ばれた議員の言葉はさらに一目置かれるのだから一層頑張りました。とのお言葉もいただき、大変身の引き締まる思いでした。

二月末からの約十日間、本山会議場で定期宗会が行われます。まずは、混乱している「領解文問題」をきちんと解決して、令和七年度宗会には新たにうごめく諸問題に対しても、しつかり取り組めるように注力していきます。

宗会のご報告もいずれかの形で出来ることと思えます。どうぞ、ご支援のほどよろしくお願いいたします。

## 宗会に臨むにあたり

下川東組 浄弘寺 下川 弘暎



昨年末の宗会議員選挙にて宗会に再度議席をいただき、皆様のご支援をありがたく思います。顧みれば、蓮如上人五百回遠忌法要を目前にした頃に初めて議席をいただいて以来二十数年間、「一人なりとも、人の信をとるが一宗の繁昌に候」(蓮如上人御一代記聞書)のお言葉を支えに宗政に臨んでまいりました。

その間には、親鸞聖人七百五十回大遠忌法要など様々な御法要や、宗門行政に参画してまいりましたが、この度ほどその責任の重大さを思うことはありません。それは今、「新しい領解文(浄土真宗のみ教え)」の問題や、賦課制度、さらには宗門の統治機構など宗門の根幹にかかわる問題が噴出しているからであります。

宗門は、二〇一一年(平成二十三年)五月に宗法を改正いたしました。その改正は、宗門の実態を深く検証し問題点を厳密に究明した上で、その対応としての改正ではありませんでした。当時、福岡教区選出の議員は、ともにこの改正に反対いたしました。宗法改正に反対投票をした議員で在職は私一人となっております。以来十二年間、私はこの宗法改正は問題であることを一貫して指摘してまいりました。「決算を審査しない議会などあり得ない、この様な法規を決めた議員の常識を問う」と批判いたしました。今、惹起されている宗門の根幹を揺るがす問題は、決算審査をしていただかならばどこかで必ずチエックが入ったはずです。その他、宗法改正したことに起因すると考えられることが多々あります。もとより、宗門は法規によって運用されます。宗門の最高法規は「宗制」です。「宗制」で示される教義と教団の成り立ちを具体的に形にする条文が宗法です。今、大きな問題は「宗制」に基づかない宗法体勢になりつつあることです。これは宗門の根幹にかかわる問題です。運用する人の宗制・宗法の理解の問題です。宗制に基づく宗法という根本的理解に立ち返り諸機構を再整備して宗門の正常化をはからねばならないと考えます。身は高齢となりましたが、二十余年の宗政経験を通し宗門の将来を思い最後のご奉公をさせていただきます。

## 宗会に臨むにあたり

志摩組 海徳寺 松月 博之



この度の任期満了による宗会議員選挙において、多くの皆様のご支持を賜り、議員として選出くださいましたこと、改めて厚く御礼申し上げます。

さて、宗門は「新しい領解文(浄土真宗のみ教え)」についての消息」発布以来混乱の極みにあります。しかし他にも宗派財政の逼迫、賦課基準の見直し、北境内地の活用問題、ビハラ関連事業の失策と誰も責任を取らない体質など、問題は山積です。また戦後八十年、新たな戦前を作らないと改めて非戦平和を希求する大切な時でもありません。しかし、これらの問題・課題に向き合うにしても、根幹であるご法義の問題で揺らいでいては為すべき意味も見出せないこととなります。領解文問題は宗派の宗務「伝わる伝道」の路線上で起こったものです。ご門主は『法統継承に際しての消息』で、これまでご縁のなかつた方々にも教えを伝えていく必要がある。「ご法義」は不変であるが「伝え方」は時代や社会の変化に応じて変えていく必要がある(趣意)ことを述べられています。このご門主のお心をどう取り違えたのか「伝え方」の中に「現代版領解文の制定」を設定した事。また宗門の英知を結集したものとは思えない内容。誰が起草したのかを含め発布に至る経緯の疑義などが絡み合い問題を複雑化させています。これは申達責任がある宗務機関が聖域を利用し引き起こした混乱と言えます。この度、非才を顧みず立候補致したのは、混乱を収束させ宗門を未来の世代のために正常化しておきたいという思い一つです。また選挙期間中にお聞かせいただいた多くのご意見ご要望は「領解文問題の解決」でした。

当選後直ちに新会派を作ること呼びかけ「凜和会」を結成し会長に就任。宗会運営委員として、正常化への動きが興るよう尽力していると私の初心、そして三好前議員が担ってこられた課題も忘れることなく議員活動を行って参る所存でございます。何卒ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

# 時局問題対策協議会 第一回公開講座(フィールドワーク)

那珂組 浄福寺 原 京子

福岡県は全国でも北海道に次ぐ二番目に多くの炭鉱が存在していた。一九一〇(明治四十三)年から日本の大陸侵略政策として日韓併合が強行され、祖国を追われて渡航してきた朝鮮人労働者や、折からの経済恐慌下を生きたため人々が産炭地の筑豊に集まつてきた。生活優先のため過酷な労働が強いられ炭坑災害は増加。このような情勢の中で一九三六(昭和十一)年炭坑火災がおき朝鮮人二十五名、日本人四名がなくなられ、その慰霊のため、「徳香追慕碑」は建立された。その後戦争の激化とともに、強制連行、強制就労の犠牲者も合葬された。炭鉱会社は一九七五(昭和五十)年頃団地造成のため墓碑を撤去しようとするが『地元住民にとって墓碑は吉隅炭鉱の重要な遺跡であり、父祖の痛みの歴史である』として、存立を強く要望し民団、総連合会、地元婦人会の強制連行を考える会との協力のもとに「徳香追慕碑」供養実行委員会が立ち上がる。地元婦人会の皆さんのお力添えは本当に大きな力だと思った。強制連行、強制就労で身も心もぼろぼろになったであろうその人達のことを、語り継いでいくのも、多くの女性たちと思う。皆で力を合わせて行動してきたこと等も語り継がれていくことを切に願うばかりである。牛馬以下の扱いを受けても、ものひとつ言えずに命を絶たれていった同僚の無縁仏の供養にと、強制連行された鄭さん作詞作曲の音頭が婦人会に贈られる。響け平和の「ボタ山音頭」の二番



の歌詞「吉隅のボタ山は友の姿で目にうつる、骨も今では土となり悔し涙で地に眠る、呼べど叫べど戻りやせぬ、徳香追慕の広場には供養踊りの輪ができた、ほら輪ができた」に胸が張り裂けそうだった。今回十月七日に開催された筑豊炭鉱フィールドワークに参加して、悲惨で悍ましく、恐ろしいこの現実を知る事ができた。私の生涯で忘れられない、忘れてはいけない体験となった。戦争は絶対反対だ。

## 福岡教区会議員研修会

福岡教区会議員 副議長

安河内 好信(柏屋組 明覚寺)

二〇二四(令和六)年十一月二十七日に、大分県宇佐市にある佐藤第二病院の院長である田畑正久先生をお迎えして「医療と仏教」についてのテーマで講演いただきました。私は先生の講演をお聞きするのは初めてでしたので、医療については最新の技術と知識を持って生命(いのち)を救い、宗教は言葉で心を救うといった相反するようなテーマでどのように関わっていくのだろうか、とても気になっていました。

そうした中で医療技術の高度化にともない「死ねない」患者が直面する「生死の苦悩」に対して、いかに精神的な不安を和らげていけるのかと言った問題に対し、若い頃から学んでいた仏教の教えが心の支えとなられた事、その経験を通して人間の生老病死の課程は医療と宗教が協力してこそ、その解決策があるのではとの話をされました。



## 福岡教区「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)

## 重点プロジェクト研修会

重点プロジェクトリーダー 郡島 朋昭

二〇二四(令和六)年十二月十八日に本願寺福岡教堂において「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)福岡教区委員会重点プロジェクト研修会を開催しました。

この度の研修会では浄土真宗本願寺派総合研究所上級研究員の香川真二さんをご講師としてお迎えし、『重点プロジェクトとは何か』をテーマとして学びを深めることとなりました。

講師より「自他ともに心豊かに生きることのできる社会」とは本願寺教団だけでなく世界中の人と宗教を超えて共有できるゴールのはずであり、そのための具体的な取り組みとして、宗派の示す「貧困の克服」以外にも各組において目の前の課題に取り組んでいく必要があると講義いただきました。

その後の班別話し合いでは講師より提起された①組における課題と取り組みについて②宗門全ての人が課題を共有して運動を進めるにはどのようにすればよいか、の二点について意見を交換しました。参加者の中には本年度から重点プロジェクトリーダーとなった方も多く、その活動内容を未だにはつきりとイメージすることができないという声も聞かれました。今回、活発な意見交換によって各組の活動を互いに確認し共有することができたことは『重点プロジェクト』を改めて学び、それぞれが各組において具体的な活動につなげるための契機となったことだろうと感じます。

今後は参加者が今回の学びを各組に持ち帰り、宗派としての重点目標を一つの指針として運動の方向性を共有しながら宗門内のすべての人がそれぞれの課題に取り組むことで「自他ともに心豊かに生きることのできる社会」の実現に向けての大きな動きを生み出していくことが願われます。

## 九州地区門信徒の集い

## 第三十五回仏教婦人(女性)大会

仏教婦人会連盟委員長 古賀 由香利(夜須組 妙専寺)

昨年の十月二十二日別府市で開催された「浄土真宗本願寺派九州地区門信徒の集い第三十五回仏教婦人(女性)大会」に、大会委員の福岡教区仏教婦人会連盟委員長として、また、三年後の二〇二七(令和九)年に福岡で開催される第三十六回の、大会委員長ならびに実行委員長として参加してまいりました。

昨年四月に夜須組仏教婦人会連盟の支部長を引き受けるまで、門徒や仏教婦人会会員としてのご縁が全くなく、こうした大きな大会に参加するのは初めてのことで、その規模の大きさに驚くとともに、ここに至るまでの実行委員の方々はじめ、関わられたみなさまのご苦勞はいかばかりであったかと思いを致したことでした。

開会式をそのような思いで拝見し、前田純代さんの記念法話を、領き、ときに笑ってお聴きし、大分教区の催し物を興味深く観ました。狂言師和泉元彌さんによる講演はお聴きしましたが、狂言は、閉会式参加のため、残念ながら『棒しばり』の途中で離席し舞台袖に向かいました。

その閉会式では、壇上で大会旗を伝達していただきました。ずしりとした大会旗の重さに、これまでの仏教婦人会会員のみなさまと、関わられたみなさまの想い、そしてそれを、第三十六回へと受け継ぐ重責を感じたことでした。それから、次回開催の挨拶を申しあげました。昼休憩のとき、他教区の仏教婦人会連盟委員長から「ほかの教区の方に、福岡教区のみなさまからなにかアピールがあったほうがいい」と伺いました。慌てて物産展のところに行き、いらっしやった数名に、その旨の伝達をお願いしました。うまくいくかと案じていましたが、果たして本番では、私の合図でみなさまが一斉に後ろを振り向き、他教区の方々に手を振ってくださいました。それを壇上から拝し、大変ありがたく、また力強く感じたことでした。この誌面をお借りして厚く御礼申し上げます。

今後、実行委員のみなさま、関係各位と力を合わせ、第三十六回の開催に向けて、さまざまなことを進めてまいりたく存じます。

# 仏教青年連盟 聞法会

仏教青年連盟役員 青木 早希

二〇二四（令和六）年十月十日に聞法会（念珠、匂い袋づくりワークショップ）を行い、約二十名の方に参加していただきました。

今回の聞法会では、作る前に念珠や匂い袋の説明をして、歴史についても触れてもらいました。また実際に自分で作ることで、これはどんな材料なんだろう、どんな種類があるんだろう、自分でも調べてみようなどと興味をもってもらう機会になればと思います。

私たちは聞法会の内容を考える中で、ただ参加して楽しいだけで終わるのではなく、仏教っておもしろい、また参加してみたいなど仏教に少しでも興味を持ってもらえるようにということをお願いしています。仏教に馴染みがない方や難しそう、なんだかよく分からないという人、若い世代や学生の方が参加してみたいと思う活動はどんなことだろうと意見を出し合っていて考えます。また、それぞれが興味があること、やってみたいことなど直接的には仏教に関係がないように思えても、いろいろな人の意見や考えを組み合わせながら仏教の活動につながるようになっており、これも仏教のおもしろさの一つかなと思っています。当日は、それぞれに楽しみながら念珠や匂い袋をつくられていて、賑やかな雰囲気でした。私もスタッフとして参加させていただき、皆さんが時間が足りなくなるほど集中して取り組んでいる姿や参加者同士交流を深める姿を見ることができてよかったです。交流会では学生の皆さんとお話しすることもでき、また今後もこのような機会を持てれば嬉しいと感じました。

今後も皆さんが参加してみたいと思えるような活動を考えていきたいと思うので、ぜひお誘い合わせの上、気軽に参加していただければと思います。また、仏教に興味があるという方もお待ちしております！



# 園見学並びに第一回福岡教区 園長・後継者研修会

夜須組 信覚寺 住職 渡邊如心（学校法人三輪学園みなみ幼稚園 園長）

二〇二四（令和六）年十二月十二日に、福岡教区保育連盟の主催で研修会を行いました。十六園、二十名の方々が参加してくださいました。

この「保育連盟」とは、本願寺派の寺院や浄土真宗と縁のある、幼稚園・保育園・こども園が、「まことの保育」を推進していくことを願って集まった団体です。こどもたちと関わる「園」という場合は、浄土真宗のみ教えが、どのように生きたものになるのか、日々問われている現場です。また、「園」は、伝道のためのものではありません。中心は、いつも千変万化のこどもたちこそあります。だからこそ保育者のこどもたちへの関わり方は、変化を恐れず創意工夫にあふれたものとなります。伝道を目的とはしないのですが、不思議とこどもたちに伝わるものがある、というのが「まことの保育」の魅力でしょう。とはいえ、それぞれの「園」には、長年にわたって自園で培われた独自の特徴があり、ややもすると自己模倣に陥りがちなのです。だから、今回の研修においては、他園を見学したり園長同士が交流をすることで、固まった価値観に風を通し、新鮮な気づきを得ることを目的としました。研修では、まず志摩組法林寺の「りんどん保育園」を見学しました。園舎の構造から遊具選別に至るまで、こどもを主体とした目線が行き届いており、また職員さんたちがオーパスペースで熱心に会議をひらいている様子も、生き生きとした園活動を感じさせるに十分なものであり、学び多き園見学でした。

次に、保育システム研究所代表の吉田正幸さんから「超少子化社会の到来と園の持続可能性」という演題で、講演をいただきました。続いて吉田さんと、さらには全国認定こども園協会代表理事の王寺直子さんとの対談で、講演の内容をさらに深めていただきました。

最後に、保育者のためのコミュニティスペース「びたカフェ」を運営されている（株）ファピ代表取締役の平田大樹さんから、保育士・幼稚園教諭をめざす学生たちの現状を報告していただきました。研修会後は、もちろん糸島の美味しい食事に舌鼓よい意見交換の場となりました。



一 法 話 言

「再び会える世界」

藪 彰顕 (粕屋組 妙福寺)

最近、私が幼い頃から親しくして下さっていたご門徒様のご法事が増えてきました。お寺の近所を歩けば「ああ、ここのおばあちゃんはおしゃべり好きだったなあ」「あそこのおばあちゃんはお盆参りにはヤクルトを用意してくださってたよなあ」「あそこのおじいちゃんは今カラオケが好きだったよなあ」と、家の前を通る時に先立たれたご門徒様との生前のやりとりを思い出しては寂しい気持ちになることがあります。

どんなに大切な方であつたとしても、どんなに名残り惜しくても、私たちの世界には死による別れがあります。そのように頭ではわかつていても避けられない現実には直面しますと、生前の楽しかった思い出とともに言いようのない悲しさや寂しさが込み上げてまいります。

親鸞聖人は晩年、お弟子に宛てた手紙の中でこのように記されています。

「この身は、いまは、ときはまりて候へば、さだめてさきだちて往生し候はんずれば、浄土にてかならずかならずまぢまゐらせ候ふべし」

(『親鸞聖人御消息』『註釈版聖典』七八五頁)

「私は今はもうすっかり年老いて、きつとあなたよりも先に往生するでしょうから、お浄土で必ず

あなたをお待ちしております」という内容のお言葉です。このお言葉を受け取られたご門弟の方は「お浄土で待つていてくださる」という親鸞聖人のお言葉をよろこび、お念仏の道を心強く歩まれたことでしょう。

阿弥陀様は、大切な方々との別れを受け入れられない私の為に、お浄土という再び会える世界をご用意くださいました。「南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏・・・」と私の口から出てくるお念仏の一声一声が、「われにまかせよ、あなたを必ず私の浄土へ生まれさせるぞ」という阿弥陀様のお喚び声であり、私は阿弥陀様のおはたらき一つで大切な方々の待つお浄土に生まれ往くのちであるとお聞かせいただいています。どんなに大切な方であつたとしても、どんなに名残り惜しくても、必ず別れていかなければなりません。しかし、ともにお念仏申す私たちには、再び会わせていただく世界があるのです。悲しみや寂しさはなくなりませんが、お浄土に支えられて、南無阿弥陀仏のお喚び声に支えられて、先立つていかれた方々と同じお浄土への道、お念仏の道を心強く歩ませてください。

南無阿弥陀仏

ホームページ・SNSも  
どうぞご覧ください

ホーム  
ページ→



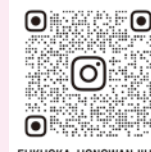
You  
Tube→



LINE→  
(ID:100xlzmt)



インスタ  
グラム→



FUKUOKA\_HONGWANJIHA

# 本願寺福岡教堂 親鸞聖人鑽仰講座

～2025 (令和7) 年度のご案内～

期 日	ご 講 師
4月 14日(月)・15日(火)	中村隆教師 (山口県岩国市 宗清寺)
5月 14日(水) 前席	川崎 潔 師 (糸島市 長楽寺)
14日(水) 後席・15日(木)	中川清昭師 (筑紫野市 願應寺)
6月 14日(土) 前席	七里誓路師 (福岡市 善照寺)
14日(土) 後席・15日(日)	松月博宣師 (糸島市 海徳寺)
7月 14日(月)・15日(火)	波佐間 正弘 師 (山口県美祿市 正隆寺)
9月 14日(日) 前席	郡島朋昭師 (春日市 光照寺)
14日(日) 後席・15日(月)	石松昭信師 (筑紫野市 栄法寺)
10月 14日(火) 前席	入江 楽 師 (粕屋郡 光雲寺)
14日(火) 後席・15日(水)	花田照夫師 (嘉穂郡 長明寺)
11月 14日(金) 前席	木村 誉 師 (福岡市 妙泉寺)
14日(金) 後席・15日(土)	倉田 恵 師 (宗像市 雲乗寺)
12月 14日(日) 前席	河野一声師 (北九州市 昭然寺)
14日(日) 後席・15日(月)	柴田弘司師 (北九州市 願照寺)
2026年	
2月 14日(土)・15日(日)	秋里大勝師 (山口県美祿市 明楽寺)
3月 14日(土) 前席	立花慈友師 (宮若市 法蓮寺)
14日(土) 後席・15日(日)	永寿祥幸師 (北九州市 照圓寺)

○時 間 13時30分～15時30分 ○会 場 本願寺福岡教堂 3階 礼拝堂 (福岡市中央区黒門3-2 TEL092-771-9081)

○交通機関 地下鉄空港線唐人町駅6番出口より徒歩4分/西鉄バス黒門バス停・唐人町バス停より徒歩4分

※8月と1月は休座いたします。※駐車場台数に限りがありますので、公共交通機関をご利用ください。

※鑽仰講座の案内を希望の方は、職員にお声掛けください。

※法座の開催状況は本願寺福岡教堂ホームページをご確認ください。

編集  
後記

先日連続研修会にて、ご門徒の方が「お浄土はあると考えたほうが自然と心が軽くなった」と眩かれておられました。死んだらなんにも無いと言っておられた方が、他の参加者と語らう中で、今一度自身の命だけでなく、もう今生では会えぬ御両親、お連れ合いの命の行く先を見つめられ、お浄土、お念仏を通してすべての命がどこまでも繋がっている真実に出会われたのだと感じ、自然と手が合わさる思いでありました。  
台掌 南無阿彌陀佛

発行責任者

浄土真宗本願寺派 福岡教区教務所長 高原 眞見

〒810-0055 福岡市中央区黒門3-2  
電話:092(771)9081